整理番号 CPSDS-G08-0063
作成日：2025 年 3 月 19 日
改訂日：2025 年 4 月 21 日
バージョン：2.4

安全データシート

１．化学品及び会社情報

化学品等の名称

製品名：　**モーエンアクア サンディング**

供給者の情報

会社名：　キャピタルペイント株式会社
住所：〒569-0054　大阪府高槻市若松町 8 番 10 号
担当部門：　営業部
担当者：　仮屋崎隆
電話番号：　072-672-7330
FAX 番号：　072-672-7336
緊急連絡先：　担当部門に同じ
E-mail アドレス：　info@capitalpaint.jp

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途：木部内装全般の下塗り

２．危険有害性の要約

＜GHS 分類＞

健康に対する有害性　眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性：区分 2
生殖毒性：区分 1

上記で記載がない項目は、区分外・分類対象外・分類できない。

＜GHS ラベル要素＞

絵表示：

注意喚起語：　**危険**

危険有害性情報：　H319 強い眼刺激
H360 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

注意書き：

＜安全対策＞　P201 使用前に取扱説明書を入手すること。
P202 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
P264 取扱い後は手／顔／眼をよく洗うこと。
P280 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

＜応急処置＞　P308+P313 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。
P337+P313 眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。
P305+P351+P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

＜保管＞　P405 施錠して保管すること。

＜廃棄＞　P501 内容物／容器を承認された廃棄物処理設備で廃棄すること。

３．組成、成分情報

成分及び含有量（危険有害物質対象）

成分名	CAS No.	含有量(%)	備考
ジプロピレングリコールモノメチルエーテル	34590-94-8	3.9	
N-メチル-2-ピロリドン	872-50-4	5.8	PRTR 第一種管理番号 746
テキサノール	25265-77-4	0~2.0	

４．応急措置

吸入した場合：　蒸気・ガスを吸い込み気分が悪くなった時、直ちに空気の清浄な場所へ移り、呼吸しやすい姿勢で安静にする。気分が回復しない場合、医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合：　付着物を布で素早く拭き取る。水および石鹸・皮膚用の洗剤を使用して充分に洗い落とす。溶剤・シンナーは使用しないこと。衣類が汚染された時、取り除いて汚れを落とす。

かぶれ等外観に変化、また痛みを生じた場合には、医師の診断を受けること。

眼に入った場合：　直ちに清浄な水で入念に洗い流す。刺激が続く時、医師の診断を受けること。
コンタクトレンズは外し、まぶたの裏まで充分に洗い流すこと。

飲み込んだ場合：　誤って飲み込んだ時、直ちに口をすすぎ、安静にして医師の診断を受けること。
嘔吐物は飲み込ませないこと。また医師の指示以外、無理に吐かせないこと。
本 SDS 等で成分、および記載された有害性情報を医師に示すこと。

５．火災時の措置

通常の環境では、製品として燃焼しないと考えられる。

６．漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

作業の際には適切な保護具（保護マスク・保護手袋・保護メガネ等）を着用する。処理中は換気を充分に行う。

周辺は立ち入り禁止にする。関係者以外を近づけないよう配慮して二次災害を防止する。

環境に対する注意措置

河川への排出などにより、環境への影響を起こさない。汚染の生じる場合は、関係機関に連絡する。

回収および浄化方法と機材

漏出物は乾燥砂・土・ウエスなどに吸着させ、密閉できる容器に回収して安全な場所に移す。

大量の流出には、盛土などで囲って流出を防止する。付着物・廃棄物などは、関係法規に基づいて処理すること。

７．取扱い及び保管上の注意

＜取扱い＞

使用説明書をよく読み、理解するまで取り扱わない。本来の用途以外に使用しないこと。

換気の良い場所で取り扱う。密閉された場所での作業は、蒸気が滞留しないよう局所排気装置を設けること。

作業中は適切な保護具を着用してばく露・汚染防止に努める。コンタクトレンズの着用は好ましくない。

取扱い中は、飲食および喫煙を慎むこと。

使用後は直ちに密栓する。手洗い・うがいを充分に行い、休憩所に手袋などの汚染保護具を持ち込まない。

＜保管＞

密栓して換気の良い冷暗所で保管すること。直射日光・熱源を避ける。また凍結させないこと。

盗難防止のため施錠する。子供の手の届かないところに保管する。

他の容器に移し替える場合は、耐腐食性のある容器を使用して必ず密栓すること。

８．ばく露防止及び保護措置

組成物質のばく露基準濃度

成分名	管理濃度	許容濃度
ジプロピレングリコールモノメチルエーテル	情報なし	情報なし
N-メチル-2-ピロリドン	情報なし	1ppm
テキサノール	情報なし	情報なし

＜設備対策＞

蒸気・ミストが発生する場合、局所排気装置等を設け換気を促す。

取扱い付近には、洗眼および身体洗浄の設備を設ける。

＜保護具＞

呼吸器の保護具：　スプレー作業を行う場合、適切な保護マスクを着用すること。

手の保護具：　有機溶剤または化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。

目の保護具：　保護メガネを着用すること。

他の保護具：　保護衣など。

９．物理的及び化学的性質

状態：液体	色：乳白	臭気：微臭	比重：1.07
沸点：100℃	発火点：情報なし	引火点：なし	
爆発限界：（下限）情報なし	（上限）情報なし	蒸気圧：情報なし	

１０．安定性及び反応性

化学的安定性：　通常の保管･取扱い条件では、安定と考えられる。
危険有害反応性の可能性：　水が蒸発して固形分が燃焼すれば、一酸化炭素等の有毒ガスを発生する恐れがある。
避けるべき条件：　高温・酸化剤の接触を避ける。

１１．有害性情報

皮膚腐食性／刺激性：区分 2（N-メチル-2-ピロリドン）
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性：区分 2A（N-メチル-2-ピロリドン）
区分 2B（ジプロピレングリコールモノメチルエーテル、テキサノール）
生殖毒性：区分 1B（N-メチル-2-ピロリドン）
特定標的臓器毒性（単回ばく露）
麻酔作用：区分 3（ジプロピレングリコールモノメチルエーテル、N-メチル-2-ピロリドン）
気道刺激性：区分 3（ジプロピレングリコールモノメチルエーテル）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）
肝臓：区分 2（N-メチル-2-ピロリドン）
肺：区分 2（N-メチル-2-ピロリドン）
神経系：区分 2（N-メチル-2-ピロリドン）
骨髄：区分 2（N-メチル-2-ピロリドン）

１２．環境影響情報

漏洩・廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので取扱いに注意する。
製品および洗浄水が、地面・川・排水溝に流れないように対処すること。
生態毒性：情報なし　残留性・分解性：情報なし　生態蓄積性：情報なし　土壌中の移動度：情報なし
水生環境有害性／短期（急性）：区分 3（テキサノール）
オゾン層への有害性：分類できない（モントリオール議定書に定める成分は含有しない）

１３．廃棄上の注意

廃塗料・容器の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約して処理する。廃棄物の内容は明確にする。
焼却・廃水処理などで発生した廃棄物も、廃棄物の処理および清掃に関する法律・関係法規に従うか委託すること。
廃塗料を焼却処理する場合、珪藻土などに吸着させて開放型の焼却炉で少量ずつ焼却する。
また有毒ガス等の発生に備え、適切な除去装置があるもので焼却すること。
空容器は内容物を完全に除去して処分する。容器・機械装置などを洗浄した排液は、地面や排水溝へ流さないこと。

１４．輸送上の注意

容器の破損・漏れがないことを確かめる。転倒・落下・損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行うこと。
取扱い及び保管上の注意の記載に従うこと。
＜国内規則＞
陸上輸送、海上輸送、航空輸送：それぞれの法令基準に従い、積載・運送を行う。
＜国際規則＞
国連番号、国連輸送名、国連分類、容器等級、海洋汚染物質：全て該当しない

１５．適用法令

労働安全衛生法
名称等を表示すべき有害物：ジプロピレングリコールモノメチルエーテル、N-メチル-2-ピロリドン、テキサノール（2026 年 4 月 1 日より対象）
名称等を通知すべき有害物：ジプロピレングリコールモノメチルエーテル、N-メチル-2-ピロリドン、テキサノール（2026 年 4 月 1 日より対象）
皮膚吸収性有害物質：ジプロピレングリコールモノメチルエーテル、N-メチル-2-ピロリドン
化学物質排出把握管理促進法：N-メチル-2-ピロリドン（第一種指定化学物質　管理番号 746）
毒物劇物取締法、消防法：該当しない

１６．その他の情報

主な引用文献：JIS Z7252:2019 GHS に基づく化学品の分類方法、JIS Z7253:2019 GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法－ラベル 作業場内の表示及び安全データシート(SDS) 、独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）公表データ、職場のあんぜんサイト（厚生労働省）、原料メーカーSDS 他

＜注意＞本データシートは、「製品の適切な取扱い」を提供するものですが、安全性を保証するものでありません。
全ての化学物質には、未知の有害性があり得るため、取扱いには細心の注意が必要です。
特殊な条件で使用される場合には、使用者各位の責任において事前に安全性などの確認を行って下さい。
なお記載内容は、現時点での情報に基づいておりますが、新たな知見により改訂される場合があります。